

『大上地区社協』ニュース



■ No.48

■平成24年10月発行

■大上地区社会福祉協議会

■発行責任者 市ノ澤 寅夫

「深谷大上ふれあいの家」で

“笑いとおしゃべりいっぱい市”で楽しむ！

大上地区社協が地域のつながりや、心豊かな地域づくり、支えあいの地域づくりを目指す一環として「深谷大上ふれあいの家」を会場として、昨年の第1回に引き続いて今年も“笑いとおしゃべりいっぱい市”を9月30日（日）に開催し、地域の350人の皆さんが集まって秋の一日を楽しみました。

当日は、台風17号の接近を心配しながらも午前中は天候に恵まれ、地区社協の役員を始め地域や各サークルの方々が腕をふるって作ったすいとん、玉こんにゃく、茹で玉子、そして赤飯や焼き鳥を、また手作りのつるし雛や和紙小物類等を販売。一方、特設舞台では皆さんが詩吟やカラオケ、フラダンス、大上タイコを披露して楽しんでいました。また、当日は笠間市長もかけつけ、地元の綱嶋、内山の両議員も参加して、集いを盛り上げていました。



笠間市長もかけつけて挨拶をされる



市のまちかど特派員も取材に来場



好評な茹で卵と玉こんにゃく



フリーマーケットの会場

深谷大上ふれあいの家の「火曜喫茶店」で “戦争と当時の生活展”を開催

大上地区社協は、心豊かな地域づくりのために深谷大上ふれあいの家で毎週火曜日に“火曜喫茶店”を開いていますが、9月11日（火）は企画展として「戦争と当時の生活展」を開催しました。

当日は、先の太平洋戦争でシベリアへ抑留され、酷寒の地で過酷な労働を強いられて大変な体験をされた11区の及川勝郎さんの体験談や、当時の召集令状、戦時貯蓄債券、歩兵操典等を展示、そして秋田の人から入手したシベリア抑留の様子を描いた絵画の複写30点も展示して当時を偲びました。

見学に来た方々は、及川さんの話を熱心に聞き入り、また過酷な状況の絵に見入っていました。また、当日は北の台小学校の3年生が授業の一環として先生に引率されて午前中に1組、午後には1組の70名が来店し、店長の岩月理事と体験者の及川さんから当時の話を熱心に聞き入っていました。そして多くの質問も出ていました。



体験談を語る及川さん（右側・奥）



北の台小学校の3年生も見学